

第5回

新宿区次世代育成協議会・部会

平成21年9月17日(木)

新宿区子ども家庭部子ども家庭課

事務局

資料確認。

次第

新宿区次世代育成支援計画（素案）

計画の基本的な考え方

現状と課題・取組みの方向

資料編

部会長

きょうは5回目の部会で、部会は最後にしたいと思うので、活発な議論をお願いしたい。

事務局

資料説明。

計画は3部に分かれており、これが一緒になって計画になる。

章について。これは第1回の部会でたたき台を決めていて、皆さんの教示をいただいた。

1の目的とビジョン、下の目標については変更がない。

13ページについて、ここに引き続きの地域ごとの現状を世帯数で考えているが、こちらは現在の素案ということで御了承いただきたい。21ページの施策の体系については皆さんに教示いただいて、これに基づいて方向が書かれている。

章について。一番ボリュームがあるところであるが、ここについては、これまでに皆さんに教示いただき、庁内で調整を行った結果をお配りしている。

章について。施策体系に沿った事業を一覧表にまとめたものである。今回示したものはまだ現段階での暫定的なもので、今後さらに調整をしていく。

「現状と課題・取組みの方向」について。

26ページ、「就学前教育の充実」のところはかなり変わっているように見えるが、内容的には変更せず、少し入れかえをしている。「思春期や若者への支援」のところは、次世代育成を世帯形成期まで広げて、今、晩婚化・非婚化が進んでいる状況を書き加えている。

28ページ「取組みの方向」は、現状と課題にそれを加えた関係で、一番下にそれに対する取り組みの方向を書き加えている。

34ページ、これは前回の議論の中で食育の課題について安全の役割をするのではないかとという意見があった。担当で考えて、前文という形で考え方を述べた中に家族全員で取り組ん

でいくということで、ここの部分もつくった。

40ページ、ここでは「20代のH I V感染者が」となっていたが、若年者の性感染全体が増えているという指摘があったので、「若年者の」という形に改めた。

41ページについては、調整中になっていたたばこ・薬物・アルコール問題については、心の健康ということで検討していく。

それから、47ページ「 保育園待機児童の解消」の中で、「子どもが生まれても仕事を続けたい！」というこのエクスクラメーションマークが計画にふさわしくないのではないかという意見があったが、とってしまうと非常に間の抜けた感じになり、タイトルとして小見出しにふさわしくないと感じる。とってしまうのであれば、この表現ではなく、「子どもが生まれても安心して働ける環境づくり」という言葉ではどうかと、今回は2つ提起している。

47ページの下では、待機児童について、今までの延長に加えてゼロ歳から1歳の乳幼児で待機児童が多いというところの原因をとらえている。

続いて56ページの課題に対する「取組みの方向」で、ひとり親の家庭への支援について、母子家庭・父子家庭への支援の充実という少し踏み込んだ表現にした。

64ページ、ここは、「子どもの笑顔があふれるまちづくり」にしたらどうかと、ソフト、ハードを含めた取り組みが一番上にあり、少し組みかえている。次の項目で「まだまだ大変！ 子どもと一緒にのおでかけ」、これについては、前回、意見がなかったが、もう一つ「子どもと一緒にのおでかけが楽しくなるまちづくり」ということで提起させていただいている。

77ページ、資料 は全体の課題と取り組みの予定だが、 - 2として「新宿区の次世代育成支援を着実に推進していくために」、そういう形で取り組むための有効な施策を着実に推進していくための環境について、ここで書いている。

68ページ、前回の議論の中で安全に関係する問題の中で区民の皆様が取り組んでくださっていることについて、余り書かれてなかったということで、この部分を加筆している。

部会長

幾つか変更あるいは加筆があったが、特に変更部分については、これまで、皆様から指摘をいただいたり、議論が発展して幾つか提案されたことをできるだけ加えた形でなされたと思う。そのことも含めて、もう一度、目標から順次修正または加筆すること、あるいは最終的に2つのどちらかに決めるという課題が残されている部分があるので、それらについて、部会としての最終的な方向性を見られればよいと思う。

目標 1 から議論を進めていく。

22ページの目標 1 - 1 「すべての子どもが大切にされる社会のために」で、ここは大きな変更はないようであるが、何か意見は。

委員

23ページの下から 3 行目から 2 行目の「区としても、「貧困」の影響による、子どもが育つ家庭において」という文章は、私にはわかりづらい文章である。

その子どもの貧困と基本的な生活習慣は連動して考えているのか。いろいろな課題があるのはよくわかるが、ちょっとこの文章が不足していると思う。

部会長

文章上の表現の問題か。

委員

そのことに触れることはいいと思うが、もうちょっと誤解のないような表現がいいと思う。

事務局

教訓にさせていただく。

部会長

目標 1 「2 子どもの生きる力を育てるために」について。

委員

26ページで、いろいろ推敲されたようだが、保育と教育の場での保育・教育の観点で保育者と教育者とは何かというようなことを書き加えられないか。保育者と教員とがいろいろとお互いに訪問し合い、そして観察し合い、それぞれの保育と教育を理解し合うところがあるが、そういった要素が入ったほうがいいと思う。

部会長

小学校以降は義務教育だが、それ以前の教育との連携云々ということで、特に幼小一貫の問題になるということで、幼小の場合、幼稚園と小学校の連携だけでいいのかという問題があるし、保育園だとどうなのかと、まだまだ小学校と幼稚園、保育園との連携問題についてはいろんな意味で議論しなければいけない部分が残っている。

だから、そういう意味でどういう方向性をといることをここで入れると、その議論をかなりしなければいけないと思う。

委員

私の認識が集団交流、特に保育所では、既に平成14年あたりから第三者評価の項目の中に

もそういった職員相互の交流とか学びが出ているし、今回の視点でそのことが明確に出たので、今の小学校との連携が人のレベルで行うことが大事なかなという印象を持っていた。

事務局

幼保・小中合同会ということで、予定の8校小学校で行われている。

ことは小学校の教育課程を届ける段階で、全校でこういった機会を持ってほしいという話をしているので、授業を見て、それについてお互いに話し合いをしたり、そういった部分も勉強はできてきているのではと認識している。

教育委員会

こういう言い方を教育ビデオの中でしているが、全小学校の学校公開日に保育・幼児教育施設の関係者が卒園した新入生の授業の様子を参観し、教員との意見交換などを行う合同会議を開催し、子どもの実態や指導のあり方の相互理解を深めるというような内容である。

委員

相互理解という機会が出されていたのは、学校に公開授業のときに行くということである。小学校の教員が就学前の保育の場ということは具体的には書いていない。

教育委員会

学校公開というか、学校説明会などを行うので、今度の新入学生の幼児が保護者とともに来るので、そのときにということである。

部会長

文章的に変えるのは最後の2行だから、今まで以上にお互いにやりとりをして、情報交換あるいは議論をしようということであろう。ほかにないか。

委員

改めてこの資料を見ていくと、この目標1 - 2だけにかかわることではないが、今までの議論でも何回か出てきた、親の都合じゃなく、子ども自身の育ちを尊重するような考え方が大事だという話が全体的にあったかと思う。ちょうどほかのところで議論していたのが、学童や放課後ひろばなどいろいろあって、親は安心して仕事ができる環境はあるが、果たして子どもにとっていい環境になっているのかという議論があった。実は、囲い込みというか、ここで遊びなさいとやっていないかみたいな議論がちょうどあり、子ども自身の自主性を尊重する考え方が、次世代育成と言いながらも、抜けがちになるなというような議論がちょうどそのときにあった。先生方もそういうフィルターが頭の中にあって、これをもう一度見直したとき、親にとって育てるのによいという表現や考え方がとても大きくにじみ出てきてい

るなというのが全体にあることが気になる。

具体的に、この目標1 - 2で見たとき、解決法のところの色合いを子ども自らの育ちを大切にするようなコンセプトをよりわかりやすくするためには、25ページの「現状と課題」にあるが、「子どもの成長を見守るとともに、生きる力を育てる環境を整備していくことが求められています。」とあるが、別にこの言っていること自体はいいが、ここを例えば「子どもの成長を見守るとともに、子どもが自ら生きる力を育てられる環境を整備していくことが求められ」と変えると、そういう視点を大切にしていることが表現できるのではないかという気がした。

もう一点は、思春期や若者への支援のセクションを読んでいて、この中には2つの観点があり、1つは、若者自身の自主性、自立性を促すためにこういうことをしなきゃいけないということと、ひいては若者の子どもを持つ親への支援ということがあると思った。どちらかという、このセクションは親が相談したいときにどうしたらいいのかとかいう話は後ろの方に出てきているので、もっと整理したほうがいいのではないか。

具体的に言うと、26ページ「思春期や若者への支援」で3行目「親は、」から、9行目「思春期の親からの相談は多いとは言えません。」は、親は子どもが大きくなってからも悩みが多いのに相談することがないという話だと思う。

だとすると、子どもが幾つになっても気軽に相談できる場所の整備が要するという話につながると思う。ここはどちらかというところとちょっと違う色合いかなという気がしたので、相談業務を拡充しようという後ろにあるところに、年齢を一括してまとめたほうがすっきりするのではないかというのが具体的な提案である。

部会長

どこにどうまとめるという提案なのか。

委員

例えば42ページ「わかりやすい相談環境の整備と相談事業の専門性の向上」で、もともとここは乳幼児や障害児しか範囲に入れていなかったと思うが、業務的には同じだし、一元化したいというのであれば、極端に言えばこちら側にまとめるほうがいいのではないか。対象者が違うので、目標1 - 2に出てくるのはちょっと違うと思う。

部会長

しかし、この思春期に対する相談、思春期の自立を全部こっちに持ってきてしまうとまずい。

委員

だから、若者本人への支援はここに残したほうがいい。

部会長

思春期の子ども自身の問題とそれを取り巻く親の問題は2つに分けたほうがいいのか。

委員

ここに残していてもいいが、2本が別にあるというのをもう少しすっきりさせたほうがいい。親の話だと思ったら子どもの話で、また親の話というふうに、文章全体を細かく見たときに、整理されていないように感じた。

表現方法だけの話なので、文言を変えたほうがいいのかということではないので、ここで討議を求めるものではない。

部会長

しかし、前の部分から親の問題を後ろに持っていこうとすると、それにかかわる表現を全部削らなくてはいけない。それもかなり大変な作業になってしまうので、2つあるということをもっと少し明示する形で、場所はここに置かせてもらう。

加筆して、そこでも触れるというのはどうか。だから、最初の部分には思春期そのものの自立的な援助は必要だと。それと同時に思春期にかかわっている周りの保護者の、特に親の相談も大事なんじゃないかということであろう。それを2つ定義しているが、最後にせっかく相談というところがあるのだから、子どもだけでなく思春期のということもここで入れたらということであろう。むしろ、最後でもう一個加筆して、思春期のところもということ、いいだろう。

では、「3 子どもが心身ともに豊かに育つために」、ここはいかがか。

子どもが心身ともに豊かに育つためにまず遊び、文化・芸術、そして食の部分があり、食は修正があったが、この3つでいかがか。

食のところ、父親のかかわりということが前回議論されたが、父親という言葉は使わないまでも、ここで家族全員という形での文言で回答したという事務局の対応である。これでよろしいか。

それでは、目標2「1 安心な妊娠・出産からはじめる子育て」「安心な妊娠」とは日本語の表現としていいのか。「安全な」ならわかるが、ニュアンスが違ってしまふ。

委員

本文の4行目に「安定した状態での妊娠・出産」がある。

部会長

何かひっかかるが、それにかわる言葉はあるか。難しいが、言わんとすることは、まさに心身ともに安定した状態である。 「妊娠」をとったらどうか。

委員

妊娠期の安心、安全で広範囲に子育てをとということか。

「安心して妊娠、出産期を送りスタートする子育て」は長いが。

事務局

もともとは「健やかな妊娠・出産への支援」が最初の提案だったが、「健やかな」を繰り返しているということで変えた。

部会長

繰り返したらおかしいか。

事務局

「健やか親子」で、中に「健やか」という言葉を使わせていただいている。

部会長

ジャンルでは、かなりはやっているというか、「健やか～」はキャンペーンになっている。

委員

例えば、言葉を変えて「安心して過ごせる産前、出産、産後」のような感じはどうか。

部会長

妊娠期というこだわりがあるらしい。

事務局

産む前という、お腹にいるとわかってから出産するまでの産前という、いわゆる産前、産後というので。

部会長

産前というと、妊娠期のかなり後半だけを指してしまうニュアンスが伝わってくる。

委員

「安心」を「健全」という言葉に変えたらどうか。

委員

「健全な妊娠」と言ったら「不健全な妊娠」というのはどうなのか。

委員

名詞では終わらないが、「安心して妊娠・出産期を送ることから」で切る。これは妊娠期のことが書かれていて、次の2にいくと発達支援となるので、いいのではないか。

部会長

子育ては、妊娠したときから子育てが始まるというところで、子育てとそれとをくっつけることに意味があるように思う。今のだと確かに内容的にはわかるが、意図が子育てが従来は生まれてからだけじゃないかと。子育てとは妊娠期からスタートするのだという思いがある。

委員

目標2に健やかな子育てを応援すると書いてあり、その第1がそこから始まるということでもいいのではないかと思う。

委員

「安心」という言葉を無理につけなくてもいいのでは。

委員

「妊娠・出産から始まる子育て支援」でもいいのではないか。

部会長

一番手直しが少なくて済みそうで包括的なのは、ダブリがあるが、「健やかな」という言葉でどうだろうか。

委員

一番すっきりしていると思う。ダブっても意味がわかる。

委員

「安心な」を最初に持ってこないで「妊娠時・出産時を安心して過ごせる健やかな子育て」は。

委員

さっきの子育てを「スタートする子育て」でもいいと思う。

部会長

「健やかな」ではだめか。

委員

内容を見ると、この趣旨は、子どもが好きで、産める環境にもあるが、不安がある方への支援ということではないか。そうすると、「安心」は別に要らないという意見もあると思うし、「妊娠期・出産から始まる安心できる子育て」でもよいのではないか。「安心」を入れ

るのであれば後に持ってきてもいいのではないか。

その下にも「妊娠期からの支援の大切さ」という見出しがあるし。

部会長

「妊娠・出産からはじまる安心した子育て」でよろしいか。

委員

今の「安心」を後にするということは、子育てが安心ということか。

部会長

「妊娠・出産からはじまるような子育て」、子育ては妊娠・出産から始まる、それが安心できるという文章になると思う。

委員

最初の文章だと、安心な妊娠・出産と、そっちのほうに安心なのかなという感じを受けるのだが、子育ても安心になるということか。

委員

どっちを先にしたいのかという、妊娠・出産期が安心できれば子育ても安心できるということで、安心する子育てだとちょっとニュアンスが違うと思う。

委員

そうすると、やっぱり妊娠・出産のほうに安心、安定というのであれば、頭につけたほうが重みがある。「安心して妊娠できる」がいいのではないか。

「安心な」を「安心して」にしているのではないか。

部会長

「安心な妊娠・出産から」は確かに日本語的になじまないが、ニュアンスが一番この表現が伝わるのではないか。このままがいいのではないか。

事務局

いろいろ考えて、結局ここになってしまったというのが実はこのタイトルなのだが、よろしいか。

部会長

次、「2 子どもの健やかな成長のために」、と2つあるが、最初は「乳幼児の健やかな発達支援」「学童期から思春期までの健康づくり」。

委員

学童期から思春期の41ページ「体力づくりと生活習慣病予防推進」で、これは学校単位

で取り組みがされていると思うが、セーフティ教室も列記していただけないか。

部会長

「たばこ・薬物・アルコール問題」に入っている。「セーフティ教室や薬物乱用防止教室を実施」。

委員

「2 子どもの健やかな成長のために」「学童期から思春期までの健康づくり」で上から4行目の「東京都が実施する」は削ってあるのだが、いきなり「体力テスト調査では、」と書いてあるが。

部会長

調査とは書いていない。「体力テストでは、」と書いてある。だから、調査になるとその母体云々が出てくるので、体力テストというかなり一般的な言葉にしている。

委員

東京都が実施する体力テストによればとか、そういう形で残しておくほうがいいのではないか。

事務局

全国の体力テストが昨年度から始まっていることもあるので、必ずしも東京都だけの結果からではない。

部会長

では、その次の目標3「1 子育て支援サービスの総合的な展開」には「子育て支援サービスの充実」と「経済的な支援」がある。

委員

の42ページの2つにまとめてあるが、調査の結果、気軽さと専門支援の両方を充実させることが必要だと思っていて、気軽に相談できるものの充実ということで、具体的に例えば行政の方々、専門職・行政職員も含めた支援プラス、ピアカウンセリング - ピアとは当事者というのだが - というのを入れたほうがいいのか。わかりにくいということであれば、そこで言うピアカウンセリングなど当事者支援も充実ということも一緒に並行してやっていくことも視点として入れておいたほうがいいのではないのかと思う。

今あるような問題、支援センターなど施設、あるいは職員の方々に専門性と気軽さの両方を追求するのは非常に難しいと思うので、例えば、今既にやっているところだと - その場

所に行かないといけないという話があるが - もといたところを広げていって、区民の人も子育て経験がある人の当事者同士の支援も一緒に連携しながら、きちんとこれを基軸にするというようなものがあればいいのではないか。

部会長

具体的に気軽に相談できる状況を、例えばピアカウンセリングというような具体的な運動を入れたほうがいいという意見か。ピアカウンセリングの、ピアとは同じような仲間という意味ではないか。

委員

どちらかという、当事者という意味である。支援センターの中にそういった部分も、転出転出で来られた方が、当事者同士が話をしながら気軽に相談できる。

部会長

いや、少なくとも当事者ということだけではないんだと思う。ピアカウンセリングは、カウンセラーがいて、こういう構造になっているが、仲間同士でピアリーダーをつくったりということでやっていくことがカウンセリングの流れである。

委員

はい、なので、子育てのことで考えると、親同士ということだと思うが。

部会長

いろいろあるのではないか。カウンセリングについては、ピアカウンセリング自身がいるんなジャンルがあると思う。

委員

その文言をピアカウンセリングにこだわってはいない。今、行政としてやっている中で、それをさらに充実させるというだけでは限界があるのではないかということで、そもそも去年の「地域で支えよう、虐待予防」で話していたように、いろんな地域の支援で地域の人々、実際に子育ての経験のある人々も、こんな相談には協力できるようにしたほうがいいという話があったので、それをここに盛り込んでおいたほうが実効性が高まるのではないかと考えた。

部会長

前回の虐待のところに出てきた、地域の人々をむしろ育てる、育てた人を受け入れるものをつくっていこうという流れをここに一言入れたらということか。

委員

環境づくりのところでもそれは組まれているが、去年の話は、各セクションのところ浸透させるということだったので、このまさに相談業務は地域の人でもお手伝いできる部分だ
と思う。

部会長

具体的にどういうものか。

委員

もし入れるとすれば、42ページの下から4行目からの「従って、」あたりに入れたらと。
下から3行目の「環境をさらに充実させつつ、」言葉はちょっと悪いかもしれないが、「一
方でピアカウンセリングなど、当事者支援の充実をしながら区内支援関係者による協力体制
をつくる必要があります」というような文言はどうか。

部会長

うまくカウンセリング体制に組み込まれるようなものをつくる。

事務局

行立てしながら、行政の窓口に来られたときに専門性を兼ね備えるというのは、ここで解
決したから、下から3行目の「受けた相談のうち専門知識が必要なケースについては、適切
な機関につなげられることが求められています。」としたらどうか。

例えば地域の人なり親同士で支援をして相談を受けたときにも、ちゃんと専門のところにも
もつなげるようなことができるものがないと、行政相談、子育て支援センターにかけた人は
ちゃんと専門のところで処理できるが、ほかのところから入ってきたものをそういったとこ
ろにつなげるというのがないと、限界がある。次の項目だが、「取り組みの方向」の中で記
載しているので、それを裏づけする「現状と課題」の書き込みでは検討させていただく。

部会長

次に、「2 都市型保育サービスの充実」が2つ記述されている。「子供が生まれても仕
事を続けたい!」、これはマークをとるかという問題である。こういうマークはふさわしく
ないという意見があった。

この項目について、2つ併記された場合、上と下、どちらがこの全体の文章の中を含めて
ふさわしいのだろうかという判断をお願いしたい。

委員

私は下のほうがよくて、例えば「子どもが生まれても」のほうがいいと思う。

委員

「生まれても」というのはかなり否定的な意味合いが感じられる。たとえ何々してもという感じがする。

部会長

でも、現実的には出産退職型というのが非常に多いので、特に出産は決してネガティブにならないようにという意味合いを込めればこの表現でも入ると思う。

要するに、生まれることをネガティブに表現するよりも、生まれることが非常にネガティブにとらえられていることをやめようよという意味合いであると思う。だから、下のほうがいい。

委員

「子育てしながら仕事したい」というのはいかがか。

部会長

「子育てしながら仕事したい」、「続けたい」。

委員

普通、仕事ができないから、いいかなという気もする。

委員

生まれる前に妊娠した時点で左遷される方もいるようである。家を買った途端に左遷される人もいるようである。

部会長

上のほうが確かにインパクトがある。

委員

子育てと書くと若干この意味が変わってくると思うので、このままのほうがどうか。

どちらでもいいのだが、上のほうがインパクトがある。

部会長

上のほうが何かインパクトがあるような気がするが、どうか。

委員 別にマークをつけなくてもいいのではないか。ほかの小見出しを見ると、文章的な小見出しばかりで、ここだけ何か「したい」という人間的な気持ちが入ってくるのはどうかと感じた。

部会長

ある意味では何かしたいと能動形だから感情的、下は推進ということにすると下のほうがいい。

委員

48ページ「待機児童解消対策の着実な推進」で、できれば認可保育所等の増設はいいのだが、質の確保を一言入れておいていただきたい。数だけの論理でいかないように。

委員

もう一つの資料にある素案の課題出しでも「学童保育と保育も」というサービスの質の確保が必要だと報告書に書かれているので、そういうものもすっきりと提示していただきたい。

部会長

そうすると、例えば増設とともに質の向上を図るよう企画する。

委員

今の47ページの「子どもが生まれても」の本文中の上から3行目「男女がともに、家庭でも社会的にも責任を果たしていくことが自然にできる」という文言で、「責任を果たしていくこと」と「自然にできる」はなじまないと思うので、むしろこれは3ページに書いてはいいかがか。

事務局

前回、いろいろ議論した結果、今この表現になった。それもじっくりこないだろうか。

委員

「男女がともに家庭でも、社会的にも責任を果たしていく社会になりつつある中で」としたほうが自然だと思う。いかがか。

部会長

「自然にできる」が不自然だということか。

委員

とってしまっても続けたほうが自然じゃないかと思う。

部会長

わかった。では、これはとる。ほかにあるか。

では、保育園と学童クラブはよろしいか。なければ次にいく。

委員

53ページ「障害児等への発達支援」の下から3行目、「発達等に関して保護者や周囲の人の理解を得た上で、」これも決して間違いではないのだが、保護者や周囲の人の理解を求め、協働するとか援助するとか、そういった要素が入ったほうがいいかと思う。

事務局

理解を得ただけではなく、その人たちが協力してというニュアンスをその中に入れる。

部会長

それでは、次の目標4「1 みんなで子育てを支えあえる環境づくり」。

委員

最初に話した観点を言ったときに、この4-1のタイトルが「みんなで子育てを支えあえる環境づくり」に入っていて、61ページ「子どもの育ちを社会全体で支援していく」という言葉があるが、こうした文言のほうが子ども自身のという観点からすると、ふさわしいのではないかと感じる。

部会長

でも、そうすると、逆に今度はそういう子育てする親たちを支援するニュアンスが逆になくなってしまわないか。子育てで確かに子どもの視点ということは大事だと思うが。

事務局

最初の丸は子育ての話で、2つ目と3つ目の課題の丸が子どもが育つ環境づくりについてである。

昔、子育てと育ちと両方並べたときもあったのだが、子ども自身の自主性を育てることを新宿区は本当に大事にしていることを書くのであればこういう文言にしたほうが伝わるのかなという気がする。

事務局

新宿区の場合は、子育てというのは、日本語として使われていないだろうという見解に立っている。

部会長

いろいろなところで子育て、そして育ちには目にする。それは子どもみずから育っていくというところを大切に。子育て・育ちにはすごく重要な点だが、それは新宿区としては使えないということである。

事務局

ただ、子どもの育ちという文を入れたいという視点を持っているので、「子どもの育ち」という表現であれば使えると思う。

部会長

まとめが悪くても、子どもの育ちと入れたらいいのではないかな。

その次にいく。「2 子どもの笑顔があふれるまちづくり」。これは、構造も変わり、最

初に「子どもの笑顔があふれるまちづくり」という形になったが、丸のところは2つ、「まだまだ大変！子どもと一緒にあそぶ」と「子どもと一緒にあそぶが楽しくなるまちづくり」とどちらの表現がいいか。

下の方がいいという声が多いようなので、「子どもと一緒にあそぶが楽しくなるまちづくり」にする。

では、「4 もっと安全で安心なまちづくり」、これも「安心な」をこの中に加えたのが議論の結果である。

安全だから安心である。ここも大分議論の成果があったと思うが、よろしいか。

最後に目標5「ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりを推進します」、これはかなり長くなっている。「1 仕事と子育てが調和できる取組みの推進」、「仕事と子育てとそれに向けた取組みの推進」だったのが「調和できる」というのに変わった。

委員

就労支援に関しては、ここだけではなく全体の中でも特に触れてはいないのか。

部会長

若者に対する就労支援は、前の思春期に婚活問題を含めて出ている。

委員

今は不景気な世の中だが、そういうことも考えているところが、ワーク・ライフ・バランスのくくりなのでちょっと外れるのかと思う。

部会長

ここでは取り上げていなくて、思春期の就労支援はこっちに持っていったという振り分けはしている。だから、仕事一般の問題というよりも、ここではあくまでもワーク・ライフのバランスというくくりの中でというものである。だから、内容的には1番である。仕事と子育てが両立したということである。そして、2番目が「男女がともに自分らしく生きられるために」ということである。「男女がともに自分らしく生きられる」じゃなくて「生きる」だな。

ということで一当たりずっと見てきたが、もう一度最初から戻り、意見はないか。

委員

全体について、これはレイアウトの問題で、改行が非常にくっついて、ボリュームがあり、改行のところは全部インデントになっているので、1段あけたほうが一般的には見やすいかと思う。区民に渡った場合、ボリュームがすごいので読まなくなる可能性があると思った。

部会長

わかった。ただ、削ったものも全部入っているので、一見すると多いように見えるが、整理してみると、意外とすっきりしている部分もあるのかもしれない。読みやすくするためにあけるといふことにする。

委員

41ページで「セーフティ教室」が出ているが、知らない方もいると思うので、これは学校でそう言っているもので、学校でやっているものであると入れたほうがいいと思う。

部会長

何とか教室というのは必ずしも学校ではない場合がある。学校でということを入れたほうがいい。

「薬物乱用防止教育」、これも学校でやっているのか。

教育委員会

やっている。

部会長

今やっているのなら、もう少しその実施をさらに充実してもいい。

委員

かなり中学校では、薬物やたばこに関しても認識が高いように聞いている。

部会長

薬物問題は、今、マスコミで騒いでいるから特に重要である。社会貢献があつて非常にいいことだ。

今までやったこの というのではなく、素案と書いてあるものの1ページである。

委員

章としては、計画の基本的な考え方を、子育てについて、親が子どもを育てるといふ言葉しか盛り込まれていない。例えば4行目の「新宿区がめざすものは、次代を担う子どもたちが健やかに育つ「子育てしやすいまち」の実現です。」といふことで、この「子育てしやすいまち」といふ言葉だけが強調されているが、子ども自身の育ちを応援することも大切だといふ観点が同じように並んでいないのでいいと思う。

部会長

先ほど来の議論と同じになると思うが、今の場合に「子ども自身の育ち」は、子育てをする際に、子ども自身の育ちを認めて子育てをすることが大事だといふ認識とは違ふのか。

委員

なぜひっかかるかという「子育てしやすいまち」というと、親にとって子育てがしやすいまちという言葉にとれるからだと思う。

部会長

親や大人の都合であるのが子育てではないと思う。要するに子どもの権利を認めて、子ども自身が育っていけるような子育てをするということを支援するまちだととるのだが、それではだめなのか。

委員

しやすいという、親の利便性という感覚がある。

事務局

ただ、それを説明するところにあえて、次代の子どもたちが健やかに育つというのをそこに込めているのである。

委員

込めているので、次代を担う子どもたちが健やかに育つまちとして、ここもかぎ括弧を入れ、そして次の「子育てしやすいまち」、つまり2つのかぎ括弧があり、この両方の視点が入っているのであれば、今までの新たにすることが生きるかもしれない。

部会長

よくわかるが、子ども自身が例えば健やかに育つということは、周りがそれを育てるといえるか、そういうものを整える人がいないと子どもは育っていかないのではないか。だから、そこはどういう関係になるのか。従来は、子育てという、育てる側だけの観点で考えてきたが、それはおかしい、子ども自身も育っていける子育てをする。教育も同じであると思う。

委員

それが理想だが、そうではなくなってきたので、それを意識するために出てきた考え方だと思う。もともとそういうのがなくても「そんなのはわかって考えなくても当たり前だ」というものが、当たり前じゃなくなってきたからあえて言って「大切にしよう」という感じで生まれてきた言葉だと思う。

部会長

でも、子ども自身が育つことだけを逆に強調すると、ほっておいたら子どもは育つという放置型だけが強調されてしまう危険性もある。だから、あくまでも両方というか、それは子育ての中に両方の意味を含めなくてはいけない。ある意味で、子どもは、逆の言い方をす

ると、生きているという存在もあるが、社会に生かされている部分もあるわけである。

委員

乳幼児期の感覚で小さい年齢の部分だけの視点になっている。ここの世代はゼロ歳から結婚するまでをとという壮大なものになっているので、その世代全部を対象と考えるときにはちょっとした違和感がある。

部会長

かなり思春期というか上のほうに視点を合わせ、子どもの自主性や主体性のようなことを考えられているのか。

委員

どちらかという、小さい子どもの視点の話が多かったので、これでよかったのかという気がした。

そう言われてみると、全体的には確かに小さいところにウエートがかかっている。思春期以降の問題は幾つかしか出てこない。婚活問題や就労問題、ワーク・ライフ・バランスは違うが、全体的には小さいほうにウエートがかかっている。

委員

関連で、具体的な4つのビジョンの ~ とある中で、さっきの61ページ「みんなで子育てを支えあえる環境づくり」という話が出ていたので、 の子育てにも「子どもの育ちと子育てを応援する人とサービスが豊富なまち」を加えてほしい。

部会長

そう提示すると、子どもの育ちと子育てを応援するのはわかる。そうすると、子どもの育ちを応援する人はどういう人なのか。

委員

例えば放課後ひろばなどがある。

部会長

それが子どもにかかわる子育てをしている人ではないのか。

委員

子どもにすれば、学校が終わった後、ほかの友達ときょうは何をしようという感じでできる環境をつくらうということ。

部会長

それが子育て環境ではないのか。

委員

そういうことができる人の目線に立つと確かに子育てだが。

部会長

すごくわかるが、子育てに対してある定義を使って、これが子育てだと定義すると、今の論はよくわかるのだが、子育て自身に対する考え方を変えていくということと矛盾しないか、子どもの育ちを応援するというのはどんな応援があるのかということにもなってくるだろう。

子どもにやりたいことをすべてやらせるわけにはいかない。

委員

今回、22ページから子どもの権利条約が提示された。これはいいと思ったが、子どものとらえ方には、一人一人の子どもを人間としてとらえるということが、ここで前面に出た今回の提案だろうと思う。そのときに、つまり、子育てしやすいまちというところで、単に大人の都合でとか、そういう流れが多分に今あるので、そこがしっかりと受けとめられるようにということで、下に書かれていることとの一貫性を考えると、さっき申し上げたようなことが大事ななとは思った。

部会長

あえて「子育て」だけを独立させてしまうと逆に、周りは何をそこでどういう支援をするのだろうか、いわゆる子育てとは違うものなのか、子育てはすごくネガティブなものにとられていいのだろうかという不安もある。

委員

ネガティブにはとらえないと思う。

部会長

両方つくるということは、こっちがそういう状況だから、これも大事だというわけだろう。子育てがすごくネガティブだから、こっちを両方併記するととらえられないか。

また、全く併記して、子育て、子育てとしてしまうと、子育てとは違うカテゴリーにあえてしなければいけないという意味がわからない。子育ての中にそれを入れるということは賛成だが、子育て、子育てと2つ併記することによって、これとは違うカテゴリーというとらえ方もできるわけである。

委員

自主性について、最初、話を言い出したのだが、例えばすごくシンプルに、違う考え方で、乳幼児期は、親が子育てできるケースということで子どもが育てられている。

学齢期、特に高学年以降になってくると、対象が親が思春期でどうしたらいいかということと、例えば中学生、高校生自身が悩みが打ち明けられるような窓口が要るようになる。対象が両方なので、両方に対してというものが必要になってくる。

部会長

今の例だとよくわかる。かなり子どもがある意味で育った後の問題で、特に子どものある種の自主性が芽生えたときに、その自主性を尊重するような仕組みがあってもいいのではないかとということか。

委員

勉強する本人に対して、子どもに対しての両立が行政サービスと応援に対してのサービスの両方があるから、ただ、子育てという観点だけではなく、そういう意味で両方あったほうがよい。

部会長

むしろ思春期のところでその視点が生かせないのか。

委員

子どもという言葉自体が、かなり抽象的だと思う。「子育て」は子育ての中に含まれているほうが抽象的だと思うという言葉を出すのであれば含まれたほうがいいと思う。

委員

子育ては二十になって大学生になって社会に出るまでは子育てという感じがするので、文章の中に入れるのは構わないが、教材としては、別にしないで、子育ての中に全部含まれているほうがわかりやすいのではないかと思う。

委員

実際、子どもが成長していく過程で社会的な支援は減ってくると思う。支援が要らなくなるわけだから。そこで子育てという言葉が出てくるのかと思っている。

部会長

思春期があったときに、子どもたち自身の対処と対応が少ないように感じているわけなのか。

委員

そうではない。20ページの4つの基本的な視点で、「子どもの権利を大切にし、子どもの幸せを第一に考える視点」を大事にしたいということを見せ、1ページに戻ってみると、その視点を一同に上げているのには、にじみ出ている表現が薄いという気がした。なので、

ここで言おうとしている意味合いが含まれているのは重々わかっているのだが、あくまでも、こういうことを大事にして、こういうものを目指すということを区民全員に発信する役目があるものだと思う。それだとすると、この視点が4つというのが、1つ目の視点がにじみ出ている度合いが少ないと思う。

部会長

例えば子育てという言葉の前に必ず、子育て、子育てという常にその2つを併記するということを全文通していけば貫徹する。それでそのこだわりを貫徹すると、子育てとはあくまでも親側というか、こちら側だけの問題だから、そうじゃないということを常に貫徹するためには、ここにあるものを全部「子育て・子育て」と全部変えるということになれば、かなりこだわりが消えるのではないか。

事務局

中に入った部分は学術系のところで、どちらかといえば、弱まりがちなので、ほかに入っているところはなかったの、ここはないというところだけはお話したので、全部というのもまたちょっとどうなのか。

部会長

だから、特に思春期や婚活期の問題とする。子どもたち自身の目線も大事にしなくてはいけないというニュアンスが入ればいいのである。

委員

「次代を担う子どもたちが健やかに育つ」のところ、何か目立つように括弧などを付けてもいいのではないか。

委員

項目自体は子育てしやすいまち、そしてそこで育ってくる健やかに育った子どもたちがまた子育てをしていくといういい循環を出していくわけである。

部会長

きょうをもって部会は閉じさせていただき、あと、きょういただいた指摘もあるので、文言的なことが比較的多いので、それは事務局と私で、できるだけ意向に沿う形で修正させていただく。次回、全体の協議会という形になり、この素案が出る。協議会全体の中で意見をいただき議論いただくということをまず行う。それが終われば、その議論を踏まえ、再度修正をして、最終的なこの次世代協議会の案として提案するのがその次の協議会である。

したがって、協議会はあと2回ということで、1回目は議論のための、2回目はそれを承

認するためのということになる。

午前12時00分閉会